

# 2021年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

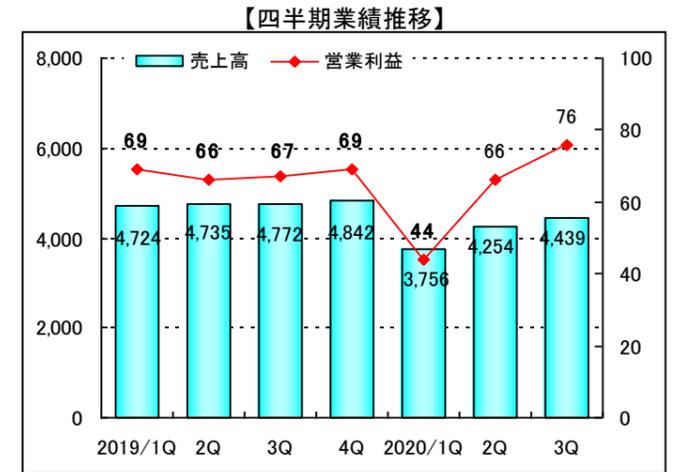
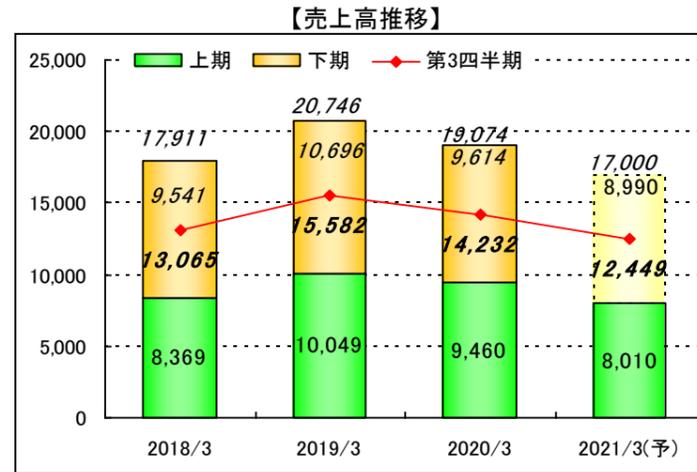
阪和興業株式会社  
(単位：億円 億円未満切捨て)

## 2021年3月期 第3四半期決算の概要

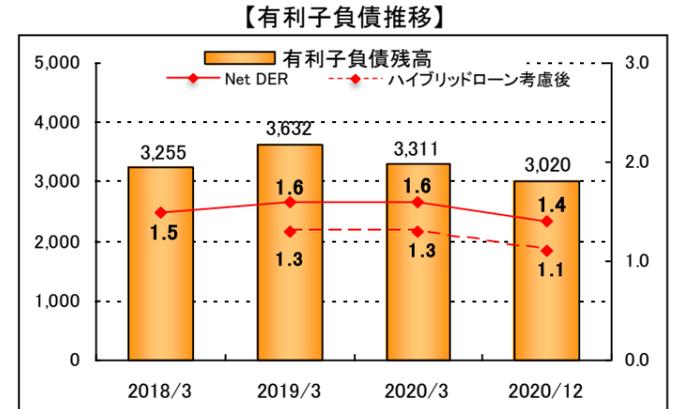
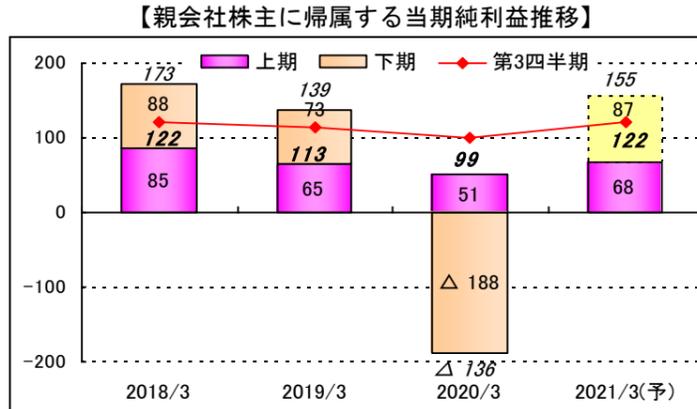
・本年度第3四半期決算は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が抑制傾向にある中、鋼材等の需要が減少し上半期を中心に取扱数量を減らした他、非鉄金属や石油製品等の価格が低い水準で推移し、売上高は前年同期比13%減の1兆2,449億円となりました。営業利益はプライマリ原料事業やリサイクル原料事業等の減益により8%減の187億円の、経常利益は持分法投資損益が利益に転じたことや支払利息の減少等により23%増の179億円の、親会社株主に帰属する四半期純利益は投資有価証券評価損が当期には生じなかったこと等から24%増の122億円となりました。  
・配当は、中間配当を12月に30円実施、期末配当は30円の実施を予定しております。

経営成績	当第3四半期 (累計)	前第3四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	12,449	14,232	△1,783	△13%	<b>(売上高)</b> 鋼材等の需要が減少し、上半期を中心に取扱数量を減らした他、非鉄金属や石油製品等の商品価格が前年同期に比べると低い水準で推移したことから、前年同期比13%減の1兆2,449億円となりました。  <b>(販管費)</b> 主に営業活動の抑制に伴う旅費交通費や交際費等の減少により、前年同期比で約23億円減少しました。また、人件費は約4億円(内、新規連結子会社分は約1億円)の増加でした。  <b>(営業外損益)</b> 営業外収益は約5億円増加、営業外費用は約45億円減少しました。経常利益に対する主な影響は以下の通りです。 支払利息：前年同期比で約12億円の減少 為替差損：前年同期比で約8億円の減少 持分法投資損益：前期 約26億円の損失 当期 約4億円の利益  <b>(特別損益)</b> 固定資産売却益約5億円：主に連結子会社における不動産売却益
売上総利益	558	598	△40	△7%	
販管費	370	394	△23	△6%	
営業利益	187	204	△16	△8%	
営業外収益	47	42	5	12%	
営業外費用	55	100	△45	△45%	
経常利益	179	145	33	23%	
特別利益	6	10	△3	△32%	
特別損失	1	8	△7	△83%	
税引前当期純利益	184	146	37	26%	
法人税等	60	58	1	3%	
四半期純利益	124	88	36	41%	
親会社株主帰属分	122	99	23	24%	
非支配株主帰属分	1	△11	12	—	
E P S	301.96円	244.34円	57.62円	24%	
四半期包括利益	147	67	79	117%	

財政状態	当第3四半期末	前期末	前期比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	8,239	7,984	254	3%	<b>(総資産)</b> 未成工事前渡金や投資有価証券の増加等により、前期末比3%増となりました。 前渡金 495億円(前期末比+33%) 投資有価証券 670億円(前期末比+18%)  <b>(負債)</b> 仕入債務や未成工事前受金の増加等により、前期末比2%増となりました。有利子負債は9%減少し、Net DERは1.4倍(1.1倍)となりました。  <b>(純資産)</b> 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益からの積み上げやその他有価証券評価差額金の増加等により、前期末比8%増となりました。 自己資本比率は、前期末比1.0ポイント上昇の21.5%(24.5%)となりました。 (*ハイブリッドローン考慮後のNet DER及び自己資本比率)
(流動資産)	6,355	6,276	79	1%	
(固定資産)	1,883	1,708	175	10%	
負債	6,444	6,323	120	2%	
(グロス有利子負債)	3,020	3,311	△290	△9%	
(ネット有利子負債)	2,391	2,638	△247	△9%	
Net DER	1.4/1.1*倍	1.6/1.3*倍	△0.2倍	△16%	
純資産	1,795	1,660	134	8%	
(株主資本)	1,725	1,613	111	7%	
(その他の包括利益累計額)	43	22	21	94%	
(非支配株主持分)	26	24	1	8%	
B P S	4,352.36円	4,027.01円	325.35円	8%	
自己資本	1,768	1,636	132	8%	
自己資本比率	21.5/24.5*%	20.5/23.6*%	1.0pt	5%	



セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	当第3四半期	前第3四半期	増減率	当第3四半期	前第3四半期	増減率	
鉄鋼	6,522	7,406	△12%	112	112	△0%	<b>(鉄鋼)</b> 建築土木分野での工事の進展に加え、製造業の生産活動も持ち直したものの、鋼材需要の減少により取扱数量が減少した他、海外通貨安による為替差損が生じ、減収減益となりました。 (プライマリ原料) 鉄鋼・非鉄金属メーカーの上期の操業低下により取扱数量が減少した一方、持分法投資損失が当期には発生せず、支払利息も低減したため、減収増益となりました。 (リサイクル原料) 製造業の生産活動縮小等に伴い取扱数量が減少した他、足元のベースメタルの価格上昇に伴い、当社在庫の価格変動リスクをヘッジするデリバティブ取引残高の時価評価で損失が生じ、減収減益となりました。 (食品) 商品価格は前年同期に比べて低い水準であったものの、アメリカの販売子会社の採算改善や、国内の連結子会社の増加等が貢献し、減収増益となりました。 (エネルギー・生活資材) 石油製品の価格が上昇基調にあった他、内外価格差が拡大し利幅を確保しました。加えてPKS(パーム椰子殻)の販売や生活雑貨類の取扱いも伸び増益となりました。 (海外販売子会社) タイでの非鉄金属取引の採算改善や、支払利息の減少等により、増益となりました。
プライマリ原料	1,599	1,917	△17%	32	△0	—	
リサイクル原料	558	595	△6%	3	15	△75%	
食品	800	800	△0%	17	8	93%	
*エネルギー・生活資材	1,293	1,514	△15%	43	28	54%	
海外販売子会社	1,455	1,915	△24%	9	4	129%	
報告セグメント計	12,228	14,149	△14%	218	168	29%	
その他	638	650	△2%	4	12	△64%	
合計	12,867	14,800	△13%	223	181	23%	
調整額	△417	△567	△26%	△43	△36	21%	
PL計上額	12,449	14,232	△13%	179	145	23%	



トピックス	内容
4月	大阪拠点の鋼材特約店・竜田鋼業株式会社の全株式を取得、完全子会社化。
10月	鉄建工業株式会社の株式90%を取得し、従来保有分と合わせて全株式を取得、完全子会社化。

通期の見通し	通期業績予想	前期実績	対前期増減率
売上高	17,000	19,074	△11%
営業利益	250	273	△9%
経常利益	230	△125	—
親会社株主に帰属する当期純利益	155	△136	—

配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
中間期	75.00円	30.00円	—
期末	25.00円	—	30.00円
年間配当	100.00円	—	60.00円
配当性向	—	—	16%

\* 本年度第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「石油・化成品事業」から、「エネルギー・生活資材事業」に名称変更しております。